

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成30年7月10日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 13名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	3890101532
事業所名 (ユニット名)	グループホーム すみれ Dユニット
記入者(管理者) 氏名	細川 奈々
自己評価作成日	30年 6月 20日

<p>【事業所理念】社会福祉法人如水会基本理念 夢を形に 1. 私たちは、介護と福祉を通じ、夢と希望に満ちた世界の実現を目指します 2. 私たちは、One for all, all for Oneの精神で高齢化する地域社会への限らない貢献を目指します 3. 私たちは、介護と福祉を通じ、地域の皆様、利用者様、職員の皆様の喜びと幸せを目指します</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 昨年5月に開設されたばかりの事業所であるが、管理者の交代や不測の事態が発生し、職員の結束で乗り切ってきた経緯がある。職員は家庭的な雰囲気の中で利用者と親密な関係を築きながら暮らしに寄り添えることを喜びと感じ、各種専門委員会を設け、一人ひとりが役割を発揮してサービスの向上に努めている。毎月介護計画に沿った内容で利用者の暮らしの様子を書いて家族に送っており、喜ばれると同時に、職員は介護計画を深く理解してサービス提供ができるようになったと感じている。日常の実践を謙虚に振り返りつつ、課題を発見して直ちに改善に結びつけようと意欲的に取り組んでいる事業所である。</p>
---	---------------------------------	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	居室担当職員が担当のご入居者と話す機会を持ち、ご本人の希望や意向をうかがうようにしている。	○	△	○	日常会話や関わりを通して聞き留めた言葉を大切に受け止め、思いや意向の把握に努めている。思いを表すことが困難な利用者は、普段と異なる表情等で推測したり、家族に確認する等している。また介護計画更新時は、居室担当者がゆっくりと時間をとって話しを聞き、意向を確認している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	日々の生活の中でふとした瞬間見られる表情や言葉、癖や習慣を通して、今までの暮らし方や希望をくみ取れるよう努めている。	△	△	△	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会時などには日々の様子を伝え、ご家族様たちからもご本人の情報を得られるよう努めている。	△	△	△	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	△	計画書にご本人の言葉を記載し共有できるようにしている。しかし、その言葉を掘り下げ思いを整理することはまだ不十分である。	△	△	△	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	ご本人の言葉を大切にし、ご本人の目線で思いに寄り添えるよう心掛けている。	△	△	△	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居前の面談だけではわからなかったことが、日を追うごとにみられるこだわりや馴染みの暮らし方が感じられるようになっていく。	△	△	△	入居時に本人と家族から情報を収集すると共に、関係機関からも情報を得、フェイスシートに記録して共有している。生活歴や暮らしの情報等は特記事項として記録しているが、さらに利用者が大切にしてきた事柄や人、場所等、暮らしの全体像を把握できるよう聞き取り項目を検討することを期待したい。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	出来ることはどんどんしていただいている。出来ることについてはご本人の気持ちに配慮しながら把握に努めている。	△	△	△	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	ご本人の生活パターンなどから把握するようにする。	△	△	△	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	職員間での気づき、ヒヤリハット報告等から把握に努めている。	△	△	△	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	それぞれの生活パターンを把握するようにしている。今後は季節でも変化や違いがあるか把握するように努めたい。	△	△	△	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	まずは情報をもとにご本人との関わり、関わりの中からご本人が求めているものを探り、職員間で共有している。	△	△	○	居室担当者が中心になって、利用者のできることを中心に考え、生活課題を検討している。その際個別性を重視し、具体的な内容になるよう考慮している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	△	居室担当が他の職員と情報交換して検討していた。6月からはユニット会を開催するようになり、居室担当が他の職員からの意見も広く聞ける場を設けている。	△	△	△	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	△	居室担当が1か月間の様子をモニタリングして、課題に気付けるように取り組んでいる。	△	△	△	

愛媛県グループホーム すみれ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	ご本人やご家族から要望をうかがい、ケアプランに取り入れるようにしている。	/	/	/	サービス担当者会議に家族が参加できるよう案内し、本人と家族を交えて介護計画の内容について話し合い、情報を共有しながら検討している。また、必要時は医療職を交えて意見を反映させている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	ケアプラン作成時にご本人、ご家族の意向を伺っている。必要に応じて専門職や業者、同建物内の特養にも相談をしながらアイデアが出るよう努めている。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	意向が確認し辛い場合でも、ご本人の様子や表情からくみ取るよう努めているが、ご家族の協力も求めている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	ご家族からの意見が引き出せるような雰囲気作りを心がけている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	個人ファイルにケアプランをはさんでおり、日々確認できるようにしている。	/	/	○	毎月行われるユニット会議で全利用者のケアカンファレンスを実施し、介護計画の内容を理解して共有している。介護計画は個人別ファイルに綴じ、確認しながら日々のケア実施状況を記録してモニタリングに反映させている。利用者の言葉を大切に記録に残し、利用者の心情の理解に努めている。職員の気付きや提案はその都度話し合い、申し送り簿に記載して共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	居室担当者が1か月の様子を、ケアプランのサービス内容に沿った様式で記録している。記録は個人ファイルに挟むようにしている。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	個人のケース記録にご本人の言葉はそのままに、様子については出来るだけ伝わりやすく記録するようにしている。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気付きや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	ユニットの申し送りノートに気付きや工夫を記録しており、職員間で共有している。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	入居後は2週間から1か月で、その後はその方の期間に応じて見直しを行っている。	/	/	○	毎月居室担当者がモニタリングを実施し、介護計画のサービス内容に沿って現状を記載し、家族にも送付している。3か月に1回短期目標実施状況や本人と家族の満足度、目標の達成状況を確認し、状況の変化がない場合も3～6か月に1回介護計画の見直しをしている。状態の変化があった場合は関係機関の担当者を交えて協議し、見直している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	居室担当者が1か月の様子を、ケアプランのサービス内容に沿った様式で記録している。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状態に変化がみられた時には、それぞれの意見を聞きながら随時見直しをするようにしている。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	ユニット会を月1回以上開催している。また、2ユニット合同の全体会議を月1回開催し、話し合いの場を設けている。緊急性のある場合は都度話し合いの場を作っている。	/	/	○	月1回ユニット会議を開催してケア内容の検討を行っている。その間他ユニットの職員が利用者のケアを行い、話し合いに集中できるよう工夫している。緊急時はその都度関係者が集まって協議し、検討している。話し合った内容は会議録を作成し、参加できない職員も含め全員に回覧し情報を共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気付き、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	ユニット会ではテーブルを囲みながら、職員全員が発言できるようしている。また、他のユニットが協力体制をとり、職員が落ち着いて話せるようにしている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	勤務表作成時に出席しやすい日程の候補を挙げている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	会の始まりに記録担当を決めて、会議記録を全員が回覧できるようにしている。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りノートを活用し、出勤時にはそれぞれ職員が確認するようにしている。また、気になることはその場で話し合ったり、確認している。	/	/	○	医療情報等職員が共有すべき情報は、医療連絡事項簿や申し送り簿を活用して伝達し、サインや捺印をして確実に共有できるよう工夫している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	日勤・夜勤申し送りファイルがあり、特記事項を個別で記録するようにしている。詳しい内容はケース記録に書いている。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	その人に合わせて出来る限りご希望に添うように努力はしている。外出などの支援はまだまだ不十分である。	/	/	/	その日着用する洋服や髪型等、利用者一人ひとりの能力に応じて自分で選択できるよう支援している。事業所内に自販機が設置されており、好みの飲み物を選んで購入することができる。また、習字やお花、アートクラブがあり、思い思いに参加して楽しんでいる。職員は利用者が笑顔で過ごせる雰囲気づくりに努めており、訪問中も和やかな笑い声が聞こえていた。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	週1回のパンの移動販売や、クラブ活動の参加、入浴時の服準備や訪問美容での髪型等、出来るだけ自分で選べるよう努めている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	ご自分の希望を積極的に話されない方には、わかりやすい言葉で答えやすい質問をしながら聞き出すよう努めている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	大まかな時間帯は決めているが、その時々で柔軟に対応できるよう心掛けている。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	ご入居者さまからのたくさんの笑顔や笑い声で楽しい雰囲気を作りを助けていただいている。職員は学ぶことが多い。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	今のところ皆さんしっかりと気持ちを伝えてくださるが、それ以外にもご本人の表情やちょっとした言葉からくみ取るよう努力をしている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	「虐待の芽チェックリスト」を作成しており、職員自身が自分や他の職員の言葉や態度を振り返る機会を設けている。	◎	◎	○	利用者の誇りやプライバシーを損なう言動がないよう留意しており、3か月に1回「虐待の芽チェックリスト」を活用して、不適切なケアがないか個別にチェックして確認している。訪問中も自室ではない部屋に入室しようとする利用者に、その都度優しく声かけをして誘導している様子が見られた。居室の扉は利用者の希望に沿って開閉されており、職員は必ずノックと声かけをした上で入室するよう徹底しており、訪問中に確認することができた。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	以前の「虐待の芽チェックリスト」においてトイレ誘導の声掛けが出来ていないことが意識できたので、現在はクリア目標として取り組んでいる。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	入浴は1対1で介助を行い、安心して入浴できるよう配慮している。排泄時はその方に合わせた言葉を使用し、自尊心を損ねることのないよう介助をしている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	以前の「虐待の芽チェックリスト」で配慮が十分でなかったことが意識できたので、現在はクリア目標として取り組んでいる。ご本人に入室することを伝え、在室・不在にかかわらず、必ずノックをして声掛けをして入室するようにしている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	個人情報保護委員会を設置しており、年1回以上の研修・委員会を開催している。しかし、中途採用職員には指導が遅くなることもある。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	昔の風習・行事・料理等でたくさん教えていただくことがある。必ず「ありがとうございます。」と感謝の言葉を伝えるようにしている。また、お手伝いもいただいている。	/	/	/	利用者同士の人間関係を見守りながら、互いを労わり支え合えるよう支援している。転倒の危険がある利用者に対し他の利用者が思いやり声をかけて注意を促すなど、いい関係が築けており、トラブルまで発展することはないが、不穏な雰囲気になると職員が間に入り話し合うようにしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	ご入居者同士のご近所付き合いを大切にしている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	トラブル発生につながるがあれば、ヒヤリハット報告書で周知するようにしている。未然に回避できるよう意識している。トラブル発生時は職員が間に入るようにしている。また、仲の良い方にも協力をお願いしている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルの原因について職員間で話し合いをしている。また、必要に応じて当事者にも説明をしたり、席替えをしたり、何らかの対応策を提案している。	/	/	/	

愛媛県グループホーム すみれ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	ご本人との会話やご家族の面会時に伺うように努めている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	ご本人との会話やご家族の面会時に伺うように努めている。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	ご家族の協力の下では実現できているが、施設側の支援ではほぼできていない。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会時にはご希望に合わせ居室に案内したり、リビングに席を設けたりゆっくり過ごしていただけるよう配慮している。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	散歩や家庭菜園の手入れ、ベランダでのおしゃべり等希望を伺い出来るだけ対応している。	×	×	△	広々とした屋上のベンチで外気浴をしたり、屋外でおやつを作って食べるなどはしているが、外出する機会があまりないため、重度の利用者も含め、全員での外出する機会が増えるような取組みが望まれる。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	ボランティアへの声掛けは現在の課題である。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	広いベランダがあり、そこでの日向ぼっこやおやつ作りのレクリエーションを通して外気に触れる機会を作っている。	/	/	△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	施設から距離のあるスーパーやお墓参り等のご希望に応えられるように、外出行事担当職員を置くようにした。現在体制作りに取り組んでいる。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症に関する外部研修に参加し、内容を勉強会などで伝達するようにしている。要因をひもとく手掛かりになっている。	/	/	/	期間毎にアセスメントを行って利用者一人ひとりの能力を把握しており、食事の盛り付けやゴミ箱作り、プランター菜園の世話等、できることに着目して能力を発揮できるよう支援している。現在利用者が楽しくできる体操DVDを活用し、日課に取り入れたいと検討するなど積極的である。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	日常生活動作をその方に合ったペース、手順、方法で継続してしていただけるよう支援している。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	日々の生活の中から出来そうなことを見つけられるよう努めている。また、一緒にしていただけそうなご入居者にも協力をしてもらっている。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	生活歴などは入所前面談だけでは把握するのは難しかったが、時間の経過とともにご本人やご家族からうかがう機会も増えている。	/	/	/	利用者の特技や趣味を把握して、毎日のメニュー書きや洗濯物干し、調理の味付け等、役割や出番が持てるよう支援しており、職員は必ず感謝の言葉を返している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	ご本人やご家族からいただいた情報をもとに、その方に合った役割を作るよう努めている。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域行事への参加がまだできていない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	朝の身だしなみとして鏡をみて整髪していただいている。男性には髭剃りもお願いしている。また、ご自分で選んだ服を着ていただくようになっている。	/	/	/	ひげ剃りなど整容の乱れに対し、配慮に欠けていると思われる点があるので、さりげないケアに努めることが望まれる。重度な状態であっても毎日の着替えや整容に努め、清潔に過ごせるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるよう支援している。	○	訪問美容サービスでは髪の長さ、色、パーマの具合などをご自分で伝えられるよう支援している。その日に着る服も自分で選べるよう支援している。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	選択肢を2つ程度にしたり、「はい」「いいえ」で答えられるようにして、自己決定がしやすいよう支援している。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	天候や気温を伝えたり、行事の内容を伝えたりして、その場に適したお洒落を楽しんでもらえるよう支援している。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	△	排泄に関わることに比べると、整容についてさりげなくという意識付けはまだ不十分である。	○	◎	△	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるよう努めている。	△	訪問サービスを利用してもらっており、ご本人行きつけの店に行くことはできていない。ご家族の協力で継続して行かれている方はいる。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	好きな髪型や好きな色などをご家族から伺い、お洒落に取り入れるようになっている。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食べることは生きることであり、それに関わるプロセスの大切さは理解している。	/	/	/	併設の特別養護老人ホームと同じ外部委託業者の栄養士が献立作成と食材の発注を行い、各ユニットで炊飯、調理をしている。毎月開催する給食委員会で利用者の希望を伝えて献立に反映するほか、誕生日には手作りケーキでお祝いする等、おやつを独自に作って楽しんでいる。利用者は調理の味付けや盛り付け等できることを手伝っている。アレルギーの考慮や季節感のあるものを取り入れるなど配慮している。食器は共通のものを使用しているが、湯呑等は使いやすい個人の物を使用している。職員は交代で休憩をとるようにしており、一緒に食卓につくことは少ないが、利用者の様子に気を配りながら優しく声かけをしていた。リビングにあるキッチンで調理しているため、重度の利用者も匂いや音を感じることができる。毎月開催の給食委員会に調理担当者が出席し、利用者がバランスの取れた栄養が摂れるよう、管理栄養士からアドバイス等ももらっている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	併設の特養と同じ外部委託業者が献立・材料の手配としている。職員が調理をする際に混ぜる、盛り付ける等を手伝ってもらっている。後片付けは毎日の日課としてできている。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	お手伝いして下さった事について職員からだけでなく、他の入居者さんからも感謝の気持ちを伝えてもらっている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	アレルギーについては入居前の面談時に把握するようにしている。好き嫌いについては変化もあるので、毎日の食事で気づきがあった場合は職員間で共有するよう努めている。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	献立は併設施設の管理栄養士・外部業者で立ててくれている。入居者毎のアレルギーも把握しており配慮されている。また、季節感を大切にして、目でも楽しめるようにしてくれている。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	ひとり一人の咀嚼・嚥下機能を確認しながら、必要な刻み、とろみを行なっているが、彩りにも注意を払うよう努めている。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	食器は共通のものを使用しているが、湯飲みコップなどはご自分のものを持ち込んでもらっている。	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	入居者さんと同じテーブルと一緒に食事を摂っている。楽しい会話もしつつ、ひとり一人の様子も確認している。	/	/	△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	リビングにあるカウンターキッチンで調理しており、音、におい、熱を常に感じられる。	○	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事摂取量・水分摂取量を毎日把握できるよう記録し、確保できるよう確認している。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	水分が摂りにくい方にはお好きな飲み物を購入したり、提供時間を追加したりしている。体調不良等で必要摂取量が継続して確保できない方については、看護職員とも相談し、栄養補助食品も提供したことがある。	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	毎月給食委員会を開催しており、外部委託業者・管理栄養士・給食担当職員が参加している。ご入居者の意見や希望を伝えたり、調理方法などのアドバイスを受ける機会を設けている。	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	感染対策委員会が中心となり食中毒の勉強会を開催した。食材管理のため冷凍冷蔵庫の温度チェックや、日々の衛生管理以外に毎月の台所清掃日で清潔を保つようになっている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	協力医療機関の訪問歯科診療時にご入居者・職員への口腔ケア指導があり理解できている。	/	/	/	口腔ケアの重要性を認識しており、毎食後の歯磨きと毎日義歯の洗浄を行っている。また、6か月に1回全員が歯科検診を受ける体制を整えて、利用者の口腔内の健康状態を把握し、歯科医の指導を得ながら日々の口腔ケアを実施している。治療が必要となった場合は訪問による歯科診療を受けることができる。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	毎日の口腔ケアや食事の様子から状態を把握するよう努めている。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問歯科診療時にご入居者さま・職員への口腔ケア指導があり、日々のケアで活かせるよう努めている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	毎食後に義歯を出してもらい手入れをしてもらっている。必要時は洗い直しをしている。寝る前には外して洗浄液につけている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後に声掛けをし口腔ケアをしてもらっている。必要な支援も行なっている。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	協力医療機関の歯科へ相談し受診へ行ったり、訪問診療をしてもらっている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	5月に紙おむつ業者による勉強会を開催し、排泄にかかわる高齢者の心理について改めて理解することができた。	/	/	/	夜間のみおむつを使用している利用者が少数いるが、日中夜間共にトイレで排泄ができるよう支援している。排泄状態を詳細に記録して職員間で話し合い、本人や家族の希望を確認しながら、時間帯や排泄量に合わせて適切な排泄用品を使用できるよう配慮に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	勉強会を通して理解している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	既往歴や習慣、排泄パターンを理解している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	排泄チェック表を確認したり、ご本人の様子からトイレへ誘導したりしてトイレで排泄ができるよう支援している。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	便秘を繰り返す方には排泄チェック表で確認しながら下剤も服用してもらっているが、できるだけ自然排便をしてもらえるよう、水分摂取量の目標を設定し取り組んでいる。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄チェック表にはトイレで排泄できた時と、すでにパットに出ている時が分かるように記録している。それぞれの方のパターンに合わせて声掛け誘導を心がけている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	パット類はは数種類の中からご本人の好みや、家族との話し合いで決めるようにしている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	主に日中と夜間で使い分けている。また、外出や行事の時などには提案させてもらうこともある。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	汁物に食物繊維パウダーを入れたり、職員が意識できるよう水分摂取量の目標値を設定し取り組んでいる。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	曜日や時間帯が職員都合になることが多いが、その中でも入浴時間やお湯の温度等は個別で対応している。体調面や入浴の拒否があるときは無理せず、曜日をずらすようにしている。	◎	/	△	湯温等は、利用者の要望に応じて対応しているが、週2回の入浴で曜日や時間帯が職員の都合等になっているため、利用者の希望など臨機応変な支援に取り組んで欲しい。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	ゆっくりと湯船に浸かり、リラックスできるよう支援している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	浴槽台や入浴用チェアを用意し、手すりも追加できるだけご自分の力で入浴ができるよう支援している。洗身や洗髪も必要な介助のみに心がけている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	入浴を強く拒否する方には無理強いせず、時間をおいて、日を変えて対応している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	毎日バイタルチェックを行い体調管理をしている。必要な方には入浴前にも再チェックをし、入浴の可否を決めている。入浴後はゆっくり水分を摂ってもらっている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム すみれ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜勤申し送りファイルやケース記録でパターンの把握に努めている。	/	/	/	日中に活動を増やすなど工夫し、薬剤に頼らない支援に努めており、不眠が続くなどやむを得ない場合は、医師や看護師と相談しながら薬を服用している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の過ごし方を見直したり、水分をしっかり摂ってもらったりして工夫はしている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	できるだけ薬に頼らない支援を目標としているが、それでも必要があればご家族や医師、看護・介護職員と話し合いの場を設けている。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	お気に入りのソファでの昼寝や、居室での昼寝などしてもらっている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	ご本人の要望に合わせて支援している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	×	電話をかけるよう促すことはしていないが、かかってきた電話からの声を聴いてもらうなどの支援はしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	ご自分の携帯電話や、電話の取次ぎなどご自由にいただいている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	年賀状が届くことがあるので、ご希望があれば一緒に読み、お返事をどうするかたずねている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	ご家族に理解、協力をお願いしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	ご本人がご自分でお金を管理する大切さは理解している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	預り金の中から引くようにしており、実際にお金に触れる機会は作れていない。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	集団で行くときにはあらかじめご挨拶をしている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	ご家族との話し合いで預り金にしている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入居時に話し合いを行っている。また、状態の変化に合わせて入居後も話し合いを設けることもある。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	預り金管理規定の中で取扱者などを明確にしている。家族にも説明をしている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	×	一人ひとりのニーズに合わせ柔軟に対応するべきと考えるが、まだ具体的なサービスには至っていない。	◎	/	△	利用者一人ひとりの具体的な要望を把握しておらず、具体的な要望にまでは至っていないため、個別の要望を聞き取り柔軟に対応するなど、今後の取組みに期待したい。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	×	大きな道路から玄関までは舗装はしてあるが上り坂になっており、気軽に立ち寄る雰囲気は醸し出せていない。 事業所は建物2階にありわかりやすいとは言えないが、玄関で職員がお声掛けや案内をしている。	◎	◎	○	入ロドアの大きな透明ガラス越しにリビングが見渡せるなど、開放感がある。事業所が2階にあるため、玄関では職員が優しく声をかけ案内をするなどの配慮がある。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	△	クラブ活動で作成した作品や、季節感を感じられるような飾りをご入居者と一緒に作成して飾っている。	○	◎	○	オープンキッチンがある共用空間は明るく、椅子席とソファ席があり、利用者はそれぞれの場所でくつろいでいる。新築されたばかりの事業所は清掃が行き届いていて美しく、不快な臭い等も感じない。利用者と職員合作の七夕飾り等季節感のある飾りをするなど、家庭的で居心地よく過ごせるようになっている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	朝日が入りまぶしくなるので遮光・遮熱シートを張って配慮している。居室掃除は入浴日に実施している。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	リビングにあるカウンターキッチンから聞こえる音やにおい、洗濯物を干すときの石鹸のかおり、また季節ごとの飾りなど、特別なものではないが家庭的な空間となっている。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	リビングでのご近所付き合いや居室での一人の時間をそれぞれ思い思いに過ごしていただいている。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	浴室は直接見えないような設計になっている。トイレはリビングに面しており、扉の開け閉めの際は職員が立ち位置を考え見えないよう配慮している。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	ご家族にも協力をしていただき、出来るだけ馴染みのものを持ち込んでもらっている。	◎	/	○	全室洋室でベッドが設置されており、馴染みの椅子や本箱、テレビ等を思い思いに配置するほか、写真や花を飾っている。家族の位牌を置き、毎日祈りを絶やさない利用者もいるなど、生活習慣を継続しながら居心地よく過ごせている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	バリアフリーで手すりを設置している。また、リビングの席は入居者の関係性だけでなく、居室やトイレへの動線も考慮している。	/	/	○	車いすで移動する利用者にとっても、安全に移動ができる生活空間になっており、リビングには本や新聞を置いて、手に取って読むことができる。居室を間違えないよう門札を大きく表示したり、トイレ表示等分りやすく工夫している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	トイレに手作りのトイレ表示をしたり、リビングのテーブルに名札を貼ったりして、ご自分が行きたい場所をわかりやすくしている。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	×	お茶の道具は職員のお手伝いが必要であったり、裁縫・園芸・大工道具は職員が管理して、その都度要望に応じている。	/	/	/	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	×	2階建ての2階にあり、ユニットから廊下へ扉は鍵がかかっている。ユニット間の扉は施錠していない。	◎	◎	△	職員は玄関に鍵をかけることの弊害を理解しているが、電子ロック構造になっているユニット玄関は時間を限定してロックされている。通常はできる限り開錠するよう試みており、今後利用者が自由に出入りできるよう取り組んで欲しい。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	入居時に話しを行い、居室に施錠をしないことについては理解をえている。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	×	2階建ての2階にあり、ユニットから廊下へ扉は鍵がかかっている。ユニット間の扉は施錠していない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	個人ファイルに入居前の診療情報やアセスメントシートを入れており把握できるようにしている。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎日の様子をケース記録に記入している。毎朝、バイタルチェックをし、記録、再検査数値を決めており必要のある方は時間をおいて再検査している。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	看護職員が配置されており、介護職員と連携をとりながら健康管理をしている。また、主治医ともすぐに相談できる体制ができており、必要な医療につなげられるよう努めている。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入居申し込みや入居前にご本人やご家族の希望を伺っており、希望される医師に受診できるよう支援している。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	ご家族・かかりつけ医・看護職員・介護職員が連携をとり、望まれる医療を受けられるよう支援している。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	その都度、情報交換や話し合いを行っている。	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院の際にはアセスメントシートに最近の日々の暮らしがわかるような内容も記入して、情報提供している。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	入院先の地域連携室に連絡をとり、情報交換に努めている。	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	入退院時や、入居相談等の機会を通じて、地域連携室との関係づくりに努めている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	介護職員は常日頃から看護職員へ相談や報告を行っており、直接伝えられないときには申し送りノートを活用している。また、看護職員よりかかりつけ医等へ伝えるようにしている。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	オンコール体制をとっており看護職員が対応している。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎朝、バイタルチェックをし、記録、再検査数値を決めており必要のある方は時間をおいて再検査しており、看護職員に報告している。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	ご入居者の内服が一覧できるようなファイルを作成しており、ファイルに薬事情報をいれている。随時更新もしている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	看護職員がご入居者の薬をわかりやすいよう与薬しており、介護職員が確認しながら服薬介助を行っている。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	内服薬が変更になった場合は申し送りノートで知らせ、何か変化がないか確認するようしている。また、便秘で下剤を服用した際には、排便状況だけでなく心身の変化も注意して観察するようになっている。	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	気になることがあればケース記録に記録し、介護・看護職員からかかりつけ医へ相談している。	/	/	/	

愛媛県グループホーム すみれ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時に重度化の指針を説明している。 また、新体制になり、再度ご家族あてに意向確認を行うようにしている。	/	/	/	入居時に終末期をどこで迎えたいか聞き取りを行っており、24時間医療体制を整備し、本人や家族の要望に応じて看取りを行う方針である。今後職員が不安なく看取りケアが実施できるよう研修を継続していく予定であるが、家族や医師等医療関係者が出席のもと、定期的に重度化や看取りについて話し合い、方針等を共有することに期待したい。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	△	ご本人やご家族の思いに出来るだけ応えらえるよう、主治医・看護職員・管理者と話し合いを行っている。 職員へは看取りの研修を行ったが、定期的に重度化や看取りについて話し合う必要がある。	○	/	△	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	職員から伝わる不安をくみ取るよう努めている。また看護職員と協力しながら支援の方向性を見極める努力はしている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	ご本人やご家族の思いに出来るだけ応えらえるよう、主治医・看護職員・管理者と話し合いを行う際に、対応方針について理解をえられるよう努めている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	ご入居者にとってのより良い暮らしを中心に、ご家族・主治医・看護職員・介護職員と情報交換し共通の認識で支援できるよう連携をとるようにしている。 また、今後も看取りの研修を定期的に行っていく予定である。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	ご家族へのねぎらいの言葉を伝え、ご家族の立場で気持ち共有できるよう努めている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	感染対策委員会が中心となり、感染症対応について季節ごとに研修を行っている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染症対応マニュアルがあり、研修を通じて周知している。 発生時にも研修を行っている。 また、嘔吐処理についてはシーズン前にシミュレーション研修を計画している。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	協力医療機関から感染症発生状況等の情報をいただいている。また、保健所へ問い合わせたり、インターネットで発生状況も確認している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	協力医療機関から感染症発生状況等の情報いただいたり、保健所へ問い合わせたり、インターネットで発生状況を確認している。また、近隣職員の家族が通っている学校等の情報も確認している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	感染症流行期には面会者にもマスク着用・手指消毒をお願いしている。 職員へは手洗い講習会を開いたり、洗面所に啓発ポスターを掲示して意識付けできるようにした。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時に日々のことを伝えたり、何かあったときは電話連絡で報告や相談をしている。				家族に行事案内を送付しているが、あまり参加者がいないため、家族に合わせて日程調整するなど、参加者が増えるよう取り組んで欲しい。毎月たよりを発行して行事の案内をしたり、担当職員が暮らしの様子を介護計画に沿って記載して送付しており、家族からも喜ばれている。事業所の運営上のことや職員の異動等については、家族に報告できていないので、運営推進会議等を利用し報告することに期待したい。家族の面会時には気持ちよく挨拶するなど声かけし、何でも気軽に相談できるよう支援に努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	笑顔で挨拶を心がけ、気持ちよく過ごしていただけるよう雰囲気作りに努めている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	×	行事やボランティア活動を毎月のためにお知らせしたり、声掛けを行っているが、まだまだ定着していない。	×		×	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月、居室担当が1か月間の様子を、ケアプランのサービス内容に沿った形式でお手紙として送っている。それ以外に「すみれだより」を発行し、行事の報告や予定、個別の写真を添えて送っている。	◎		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	面会の際にご家族の本音をうかがえるような関係づくりに努めている。会話の中から感じ取れるときはしっかりと話をさせていたが、介護職員の異動・退職等については報告はできていない。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	ご家族の本人に対する思いは日々の会話からも伺えることは多く、ご家族の思いに寄り添えるよう努力はしている。ご家族に向けた認知症の勉強会も計画している。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	重要事項説明書に関する事項は文書にて説明し同意書をいただいている。理事長・管理者等の変更時にはあいさつ文を送っていたが、介護職員の異動・退職等については報告はできていない。	○		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	面会の際にご家族同士でお話をされることはあるが、行事や家族会などは開催できていない。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	入居前にリスク説明を行っている。また、事故報告もその都度行い、再発防止策についても伝えるようにしている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	ご家族から気軽に声掛けしていただけるよう、まずは気持ちの良い挨拶を心がけている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約時には時間をとって説明を行っている。内容の変更については、わかりやすい言葉で説明し、理解をえるようにしている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	ご家族の意向に沿って退居の支援を行っている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時及び料金改定時には文書で説明し、同意書にて同意をえている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	×	今後、地域の方にも参加してもらえるような行事を企画、開催し、身近な施設として知っていただくよう努めている。	/	◎	/	事業所周辺は商業地で民家はなく、日常的な近所付き合いが困難な環境である。同一法人が運営する事業所や保育園児との交流の機会はあるが、近隣住民との交流の機会は限定的である。今後認知症啓発を目的とした研修会を企画し、地域住民に事業所を知ってもらいたいと考えており、地域住民とも交流の機会を増やすなど、地域とのつながりが強固になるような取組みに期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	×	近隣保育園との交流やボランティア活動を通しての地域とのつながりはあるが、今後は防災訓練や市民清掃などにも参加をして関係性を深めていきたい。	/	×	×	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	地域とのつながりは課題であり、今後情報発信をし取り組んでいく必要がある。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	犬の散歩で駐車場まで来られている方には挨拶をしている。まだまだ課題が多い。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	ご近所さんが少ない環境ではあるが、お会いする方には挨拶をしている。時々、施設についての質問もいただいている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	近隣保育園の訪問や、園児との農園での芋作りなどで交流を図っている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	×	近隣保育園や介護施設との交流がほとんどなので、今後はもっと地域イベントへの参加や、スーパーや公園へのお出かけなど力を入れたい。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	近隣は介護施設や病院があり、日ごろから連携をとっている。また、訪問理美容、移動販売等では定期的に訪問してもらっている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	ご入居者・ご家族に依頼して参加してもらっている。地域の方としては町内会がないので民生委員さんに依頼して参加してもらっている。	×	/	○	利用者や家族、民生委員、職員等の参加により会議を開催している。会議では外部評価等について報告し、家族等から意見や提案等を出してもらっているが、事業所の運営に反映するまでには至っていないので、今後は積極的な取組みに期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	ご家族よりいただいたご意見を紹介し、それに対する取り組みなどを報告している。その他に活動予定・報告をし、写真なども見ていただいている。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	△	事業所が抱えている問題についての確かなアドバイスやご提案をいただくことが多い。サービスの向上にまだまだつなげられていないので今後はしっかりと取り組みたい。	/	◎	△	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	テーマに合わせて専門機関に出席を依頼している。また、ご家族様への案内も行っている。	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	議事録はファイルにしてユニット入り口に設置している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	「地域・利用者・職員の喜びと幸せ」という夢を形にするために、One for all, all for Oneの精神で貢献するという共通認識をもって取り組んでいる。職員会議の前には職員全員で唱和し意識づけを図っている。	/	/	/	代表者は職員の勤務実績を把握しており、個別に話し合う機会を作っている。外部研修については勤務扱いにする等の支援制度があり、職員が研修を受けやすいよう配慮されている。今後はストレスマネジメントについても学習をしたいと考えるなど、職員のストレス軽減にも努めている。
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	事業所内に掲示している。わかりやすく伝えることまでは至っていない。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	△	系列法人内で計画的に役職に合わせた研修を実施している。また、資格取得や興味のある内容の研修に参加してもらえるよう取り組んでいる。	/	/	/	
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	毎月勉強会を開催しており、職員のスキルアップを図っている。新人職員には教育担当職員を決めて、安心して仕事に取り組めるようになるまで約2か月間指導している。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	代表者は個々の努力や勤務実績を把握し、その都度話し合う機会も作っている。資格取得への支援もしており、やりがいや向上心を持って働ける環境作りにも努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	地域の事業者連絡会や同業者の交流会等へ管理者や職員を積極的に参加させており、意識向上を図っている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	勤務変更や休みを気軽に相談にのり対応することで、職員自身や家族を大切にしている。ストレスケアに興味があり研修を受けている職員がいるので、今後はその職員に教えてもらいながらストレスケアにも取り組みたい。	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	勉強会や講師を招いての研修を通して理解している。	/	/	/	
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	「虐待の芽チェックリスト」を活用して、日々のケアの振り返りをする機会を作っている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	虐待発生時のマニュアルや法令遵守マニュアルがあり、研修を通して周知している。	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	毎朝、出勤職員の顔を見て挨拶を交わしている。気になることがあれば声をかけて話を聞くようにしている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	勉強会や講師を招いての研修を通して理解している。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	研修を通して理解しているが、気づきがあったときにはその場で話し合いをしている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	入居前・入居契約時に身体拘束は行わないことを十分に説明をしている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム すみれ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	それぞれの制度について学ぶ機会があったが、忘れがちになるので勉強会を開催して学びなおす必要がある。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	入居相談で必要性を感じた時には前もって市役所や社協においてあるパンフレットで情報提供をしている。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	運営推進会議は地域包括支援センターや社会福祉協議会にも参加していただくようにし、日ごろから連携を図るよう努めている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	緊急時の対応マニュアルは作成している。前回の勉強会から時間も経ったので、再度勉強会を計画している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	その都度看護職員に聞きながら確認している。また、看護職員が行う処置も見るように心がけている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハット報告書を簡単な様式にして、すぐに書き留められるようしている。報告書はすぐ目に付くところに掲示し共有するようにしている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	事故報告書の再発防止策を検討するときや、ヒヤリハット報告が出た際に職員で話し合いを行っている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情解決に関する規定を定め、苦情受付窓口を設けている。また、事業所入り口にご意見箱も設置している。苦情があった場合にどのような対応をするべきか参考資料等で勉強している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	いただいたご意見に対しては速やかに回答するよう対応している。また運営推進会議でも報告をしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情やご意見をいただいた時には、職員全員に周知するようにし、対策案を検討するようにしている。匿名でいただくことが多いため、上記のことを回答書として掲示し、ご意見をいただいたことに感謝の気持ちも伝えている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議やケアカンファレンスに参加していただいた際に伺っている。また、日頃から何でも言いやすい雰囲気作りと関係作りにも努めている。			○	利用者との日常会話の中で要望を聞き取るほか、介護計画更新時に時間を設けて意向を確認している。家族は運営推進会議や来訪時に意見や希望を聞くほか、意見箱に入った意見については丁寧に対応し、改善策をユニット入口に掲示して家族に周知している。管理者は積極的に個人面談を実施して、職員からの意見や提案を聞くよう努めているが、不十分な感もあるので今後は定期的に面談の機会を設けることが望まれる。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	苦情受付窓口を設けている。また、事業所入り口にご意見箱を設置している。また、日頃から言いやすい雰囲気作り、関係作りにも努めている。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	苦情受付窓口について事業所の担当者と第三者委員さん、公的な窓口を掲示をしている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	日頃からユニットに足を運んでおり、職員に声をかけている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	△	職員全員と面談をし、職員の意見や提案を聞くことができた。また、その意見を全ユニット合同の会議で発表し、みんなで検討をしている。				

愛媛県グループホーム すみれ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	-	計画はしているが、まだ実施できていない。	/	/	/	今回初めてのサービス評価であり、自己評価をしていく中で気付くことが多かったと感じており、可能な事柄についてはすでに改善に取り組んでいる。今回は様々な事情が重なり、職員全体の取組みにならなかったが、今後の過程において職員で話し合う機会を持ち、成果と課題を共有しながらサービスの向上に繋げていくことに期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	-	今回が初めての外部評価であり、課題が多数明確になった。今後活かしていきたい。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	-	職員全員で結果を受け止め、目標達成計画を作成し取り組んでいきたい。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	-	運営推進会議や指導監査などで報告できるようにしたい。	○	○	-	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	-	成果が確認できるような工夫をしたい。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	防災計画を作成し、職員がいつでも見れるようにしている。	/	/	/	事業所周辺には法人が運営する複数の事業所があり、協力し合える環境がある。夜間を想定した火災避難訓練では、消防署の指導を得て避難方法を話し合っている。運営推進会議において地区防災訓練や福祉避難所の受け入れ等提案を受けており、訓練への参加を通して地域との協力関係を構築していくことに期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	夜間帯を想定した訓練を行っている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	防火管理者が定期的に行っている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	地域の消防署とは連携をとり、避難訓練に立ち会ってもらっている。今年度は消防署の救命講習会を計画している。 近隣施設との合同訓練についてはまだ話し合いができていない。	×	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	地域ケア会議に参加した際に共同訓練の話題も上がったので、事業所としても積極的に参加していきたいが、まだできていない。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	今後、地域の方に発信していけるよう取り組んでいきたい。	/	/	/	管理者は、地域ケア拠点としての活動については、これからの課題であると感じており、積極的に地域の関係機関に働きかけて、事業所のPRにも積極的に取り組んでいくことに期待したい。また職員で話し合いながら、地域に根ざし地域住民に信頼される事業所を目指して欲しい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	地域の方からの相談があった際は行っている。	/	×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	ボランティアに来ていただいた際に、練習場所も解放していることを伝えている。運営推進会議等でも伝えている。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	現在は実績はないが、お話があればぜひ協力したい。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	地域の事業所連絡会や運営推進会議、同業者のサークル活動等で連携を図っている。地域の一員として認めていただけるよう努力をしていきたい。	/	/	△	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成30年7月10日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 13名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	3890101532
事業所名	グループホーム すみれ
(ユニット名)	Eユニット
記入者(管理者)	
氏名	細川 奈々
自己評価作成日	30年 6月 20日

<p>【事業所理念】社会福祉法人如水会基本理念 夢を形に 1. 私たちは、介護と福祉を通じ、夢と希望に満ちた世界の実現を目指します 2. 私たちは、One for all, all for Oneの精神で高齢化する地域社会への限らない貢献を目指します 3. 私たちは、介護と福祉を通じ、地域の皆様、利用者様、職員の皆様の喜びと幸せを目指します</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 昨年5月に開設されたばかりの事業所であるが、管理者の交代や不測の事態が発生し、職員の結束で乗り切ってきた経緯がある。職員は家庭的な雰囲気の中で利用者と親密な関係を築きながら暮らしに寄り添えることを喜びと感じ、各種専門委員会を設け、一人ひとりが役割を発揮してサービスの向上に努めている。毎月介護計画に沿った内容で利用者の暮らしの様子を書いて家族に送っており、喜ばれると同時に、職員は介護計画を深く理解してサービス提供ができるようになったと感じている。日常の実践を謙虚に振り返りつつ、課題を発見して直ちに改善に結びつけようと意欲的に取り組んでいる事業所である。</p>
---	---------------------------------	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	居室担当職員が担当のご入居者と話す機会を持ち、ご本人の希望や意向をうかがうようにしている。	○		○	日常会話や関わりを通して聞き留めた言葉を大切に受け止め、思いや意向の把握に努めている。思いを表すことが困難な利用者は、普段と異なる表情等で推測したり、家族に確認する等している。また介護計画更新時は、居室担当者がゆっくりと時間をとって話しを聞き、意向を確認している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	日々の生活の中でふとした瞬間見られる表情や言葉、癖や習慣を通して、今までの暮らし方や希望をくみ取れるよう努めている。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会時などには日々の様子を伝え、ご家族様たちからもご本人の情報を得られるよう努めている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	△	計画書にご本人の言葉を記載し共有できるようにしている。しかし、その言葉を掘り下げ思いを整理することはまだ不十分である。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	ご本人の言葉を大切にし、ご本人の目線で思いに寄り添えるよう心掛けている。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居前の面談だけではわからなかったことが、日を追うごとにみられるこだわりや馴染みの暮らし方が感じられるようになっていく。			△	入居時に本人と家族から情報を収集すると共に、関係機関からも情報を得、フェイスシートに記録して共有している。生活歴や暮らしの情報等は特記事項として記録しているが、さらに利用者が大切にしてきた事柄や人、場所等、暮らしの全体像を把握できるよう聞き取り項目を検討することを期待したい。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	出来ることはどんどんしていただいている。出来ることについてはご本人の気持ちに配慮しながら把握に努めている。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	ご本人の生活パターンなどから把握するようにする。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	職員間での気づき、ヒヤリハット報告等から把握に努めている。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	それぞれの生活パターンを把握するようにしている。今後は季節でも変化や違いがあるか把握するように努めたい。				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	まずは情報をもとにご本人との関わり、関わりの中からご本人が求めているものを探り、職員間で共有している。			○	居室担当者が中心になって、利用者のできることを中心に考え、生活課題を検討している。その際個別性を重視し、具体的な内容になるよう考慮している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	△	居室担当が他の職員と情報交換して検討していた。6月からはユニット会を開催するようになり、居室担当が他の職員からの意見も広く聞ける場を設けている。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	△	居室担当が1か月間の様子をモニタリングして、課題に気付けるように取り組んでいる。				

愛媛県グループホーム すみれ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	ご本人やご家族から要望をうかがい、ケアプランに取り入れるようにしている。				サービス担当者会議に家族が参加できるよう案内し、本人と家族を交えて介護計画の内容について話し合い、情報を共有しながら検討している。また、必要時は医療職を交えて意見を反映させている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	ケアプラン作成時にご本人、ご家族の意向を伺っている。必要に応じて専門職や業者、同建物内の特養にも相談をしながらアイデアが出るよう努めている。	○			
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	意向が確認し辛い場合でも、ご本人の様子や表情からくみ取るよう努めているが、ご家族の協力も求めている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	ご家族からの意見が引き出せるような雰囲気作りを心がけている。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	個人ファイルにケアプランをはさんでおり、日々確認できるようにしている。			○	毎月行われるユニット会議で全利用者のケアカンファレンスを実施し、介護計画の内容を理解して共有している。介護計画は個人別ファイルに綴じ、確認しながら日々のケア実施状況を記録してモニタリングに反映させている。利用者の言葉を大切に記録に残し、利用者の心情の理解に努めている。職員の気付きや提案はその都度話し合い、申し送り簿に記載して共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	居室担当者が1か月の様子を、ケアプランのサービス内容に沿った様式で記録している。記録は個人ファイルに挟むようにしている。			○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	個人のケース記録にご本人の言葉はそのままに、様子については出来るだけ伝わりやすく記録するようにしている。			○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気付きや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	ユニットの申し送りノートに気付きや工夫を記録しており、職員間で共有している。			○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	入居後は2週間から1か月で、その後はその方の期間に応じて見直しを行っている。			○	毎月居室担当者がモニタリングを実施し、介護計画のサービス内容に沿って現状を記載し、家族にも送付している。3か月に1回短期目標実施状況や本人と家族の満足度、目標の達成状況を確認し、状況の変化がない場合も3～6か月に1回介護計画の見直しをしている。状態の変化があった場合は関係機関の担当者を交えて協議し、見直している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	居室担当者が1か月の様子を、ケアプランのサービス内容に沿った様式で記録している。			○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状態に変化がみられた時には、それぞれの意見を聞きながら随時見直しをするようにしている。			○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	ユニット会を月1回以上開催している。また、2ユニット合同の全体会議を月1回開催し、話し合いの場を設けている。緊急性のある場合は都度話し合いの場を作っている。			○	月1回ユニット会議を開催してケア内容の検討を行っている。その間他ユニットの職員が利用者のケアを行い、話し合いに集中できるよう工夫している。緊急時はその都度関係者が集まって協議し、検討している。話し合った内容は会議録を作成し、参加できない職員も含め全員に回覧し情報を共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気付き、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	ユニット会ではテーブルを囲みながら、職員全員が発言できるようしている。また、他のユニットが協力体制をとり、職員が落ち着いて話せるようにしている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	勤務表作成時に出席しやすい日程の候補を挙げている。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	会の始まりに記録担当を決めて、会議記録を全員が回覧できるようにしている。			○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りノートを活用し、出勤時にはそれぞれ職員が確認するようにしている。また、気になることはその場で話し合ったり、確認している。			○	医療情報等職員が共有すべき情報は、医療連絡事項簿や申し送り簿を活用して伝達し、サインや捺印をして確実に共有できるよう工夫している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	日勤・夜勤申し送りファイルがあり、特記事項を個別で記録するようにしている。詳しい内容はケース記録に書いている。	○			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	その人に合わせて出来る限りご希望に添うように努力はしている。外出などの支援はまだまだ不十分である。	/	/	/	その日着用する洋服や髪型等、利用者一人ひとりの能力に応じて自分で選択できるよう支援している。事業所内に自販機が設置されており、好みの飲み物を選んで購入することができる。また、習字やお花、アートクラブがあり、思い思いに参加して楽しんでいる。職員は利用者が笑顔で過ごせる雰囲気づくりに努めており、訪問中も和やかな笑い声が聞こえていた。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	週1回のパンの移動販売や、クラブ活動の参加、入浴時の服準備や訪問美容での髪型等、出来るだけ自分で選べるよう努めている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	ご自分の希望を積極的に話されない方には、わかりやすい言葉で答えやすい質問をしながら聞き出すよう努めている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	大まかな時間帯は決めているが、その時々で柔軟に対応できるよう心掛けている。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	ご入居者さまからのたくさんの笑顔や笑い声で楽しい雰囲気を作りを助けていただいている。職員は学ぶことが多い。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	今のところ皆さんしっかりと気持ちを伝えてくださるが、それ以外にもご本人の表情やちょっとした言葉から読み取るよう努力をしている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	「虐待の芽チェックリスト」を作成しており、職員自身が自分や他の職員の言葉や態度を振り返る機会を設けている。	◎	◎	○	利用者の誇りやプライバシーを損なう言動がないよう留意しており、3か月に1回「虐待の芽チェックリスト」を活用して、不適切なケアがないか個別にチェックして確認している。訪問中も自室ではない部屋に入室しようとする利用者に、その都度優しく声かけをして誘導している様子が見られた。居室の扉は利用者の希望に沿って開閉されており、職員は必ずノックと声かけをした上で入室するよう徹底しており、訪問中に確認することができた。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	以前の「虐待の芽チェックリスト」においてトイレ誘導の声掛けが出来ていないことが意識できたので、現在はクリア目標として取り組んでいる。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	入浴は1対1で介助を行い、安心して入浴できるよう配慮している。排泄時はその方に合わせた言葉を使用し、自尊心を損ねることのないよう介助をしている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	以前の「虐待の芽チェックリスト」で配慮が十分でなかったことが意識できたので、現在はクリア目標として取り組んでいる。ご本人に入室することを伝え、在室・不在にかかわらず、必ずノックをして声掛けをして入室するようにしている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	個人情報保護委員会を設置しており、年1回以上の研修・委員会を開催している。しかし、中途採用職員には指導が遅くなることもある。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	昔の風習・行事・料理等でたくさん教えていただくことがある。必ず「ありがとうございます。」と感謝の言葉を伝えるようにしている。また、お手伝いもいただいている。	/	/	/	利用者同士の間人間関係を見守りながら、互いを労わり支え合えるよう支援している。転倒の危険がある利用者に対し他の利用者が思いやり声をかけて注意を促すなど、いい関係が築けており、トラブルまで発展することはないが、不穏な雰囲気になると職員が間に入り話し合うようにしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	ご入居者同士のご近所付き合いを大切にしている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	トラブル発生につながるがあれば、ヒヤリハット報告書で周知するようにしている。未然に回避できるよう意識している。トラブル発生時は職員が間に入るようにしている。また、仲の良い方にも協力をお願いしている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルの原因について職員間で話し合いをしている。また、必要に応じて当事者にも説明をしたり、席替えをしたり、何らかの対応策を提案している。	/	/	/	

愛媛県グループホーム すみれ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	ご本人との会話やご家族の面会時に伺うように努めている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	ご本人との会話やご家族の面会時に伺うように努めている。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	ご家族の協力の下では実現できているが、施設側の支援ではほぼできていない。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会時にはご希望に合わせ居室に案内したり、リビングに席を設けたりゆっくり過ごしていただけるよう配慮している。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	散歩や家庭菜園の手入れ、ベランダでのおしゃべり等希望を伺い出来るだけ対応している。	×	×	△	広々とした屋上のベンチで外気浴をしたり、屋外でおやつを作って食べるなどはしているが、外出する機会があまりないため、重度の利用者も含め、全員での外出する機会が増えるような取組みが望まれる。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	ボランティアへの声掛けは現在の課題である。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	広いベランダがあり、そこでの日向ぼっこやおやつ作りのレクリエーションを通して外気に触れる機会を作っている。	/	/	△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	施設から距離のあるスーパーやお墓参り等のご希望に応えられるように、外出行事担当職員を置くようにした。現在体制作りに取り組んでいる。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症に関する外部研修に参加し、内容を勉強会などで伝達するようにしている。要因をひもとく手掛かりになっている。	/	/	/	期間毎にアセスメントを行って利用者一人ひとりの能力を把握しており、食事の盛り付けやゴミ箱作り、プランター菜園の世話等、できることに着目して能力を発揮できるよう支援している。現在利用者が楽しくできる体操DVDを活用し、日課に取り入れたいと検討するなど積極的である。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	日常生活動作をその方に合ったペース、手順、方法で継続してしていただけるよう支援している。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	日々の生活の中から出来そうなことを見つけられるよう努めている。また、一緒にしていただけそうなご入居者にも協力をしてもらっている。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	生活歴などは入所前面談だけでは把握するのは難しかったが、時間の経過とともにご本人やご家族からうかがう機会も増えている。	/	/	/	利用者の特技や趣味を把握して、毎日のメニュー書きや洗濯物干し、調理の味付け等、役割や出番が持てるよう支援しており、職員は必ず感謝の言葉を返している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	ご本人やご家族からいただいた情報をもとに、その方に合った役割を作るよう努めている。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域行事への参加がまだできていない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	朝の身だしなみとして鏡をみて整髪していただいている。男性には髭剃りもお願いしている。また、ご自分で選んだ服を着ていただくようにしている。	/	/	/	ひげ剃りなど整容の乱れに対し、配慮に欠けていると思われる点があるので、さりげないケアに努めることが望まれる。重度な状態であっても毎日の着替えや整容に努め、清潔に過ごせるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるよう支援している。	○	訪問美容サービスでは髪の長さ、色、パーマの具合などを自分で伝えられるよう支援している。その日に着る服も自分で選べるよう支援している。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	選択肢を2つ程度にしたり、「はい」「いいえ」で答えられるようにして、自己決定がしやすいよう支援している。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	天候や気温を伝えたり、行事の内容を伝えたりして、その場に適したお洒落を楽しんでもらえるよう支援している。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	△	排泄に関わることに比べると、整容についてさりげなくという意識付けはまだ不十分である。	○	◎	△	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるよう努めている。	△	訪問サービスを利用してもらっており、ご本人行きつけの店に行くことはできていない。ご家族の協力で継続して行かれている方はいる。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	好きな髪型や好きな色などをご家族から伺い、お洒落に取り入れるようにしている。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食べることは生きることであり、それに関わるプロセスの大切さは理解している。	/	/	/	併設の特別養護老人ホームと同じ外部委託業者の栄養士が献立作成と食材の発注を行い、各ユニットで炊飯、調理をしている。毎月開催する給食委員会で利用者の希望を伝えて献立に反映するほか、誕生日には手作りケーキでお祝いする等、おやつを独自に作って楽しんでいる。利用者は調理の味付けや盛り付け等できることを手伝っている。アレルギーの考慮や季節感のあるものを取り入れるなど配慮している。食器は共通のものを使用しているが、湯呑等は使いやすい個人の物を使用している。職員は交代で休憩をとるようにしており、一緒に食卓につくことは少ないが、利用者の様子に気を配りながら優しく声かけをしていた。リビングにあるキッチンで調理しているため、重度の利用者も匂いや音を感じることができる。毎月開催の給食委員会に調理担当者が出席し、利用者がバランスの取れた栄養が摂れるよう、管理栄養士からアドバイス等ももらっている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	併設の特養と同じ外部委託業者が献立・材料の手配としている。職員が調理をする際に混ぜる、盛り付ける等を手伝ってもらっている。後片付けは毎日の日課としてできている。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	お手伝いして下さった事について職員からだけでなく、他の入居者さんからも感謝の気持ちを伝えてもらっている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	アレルギーについては入居前の面談時に把握するようにしている。好き嫌いについては変化もあるので、毎日の食事で気づきがあった場合は職員間で共有するよう努めている。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	献立は併設施設の管理栄養士・外部業者で立ててくれている。入居者毎のアレルギーも把握しており配慮されている。また、季節感を大切にして、目でも楽しめるようにしてくれている。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	ひとり一人の咀嚼・嚥下機能を確認しながら、必要な刻み、とろみを行なっているが、彩りにも注意を払うよう努めている。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	食器は共通のものを使用しているが、湯飲みコップなどはご自分のものを持ち込んでもらっている。	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	入居者さんと同じテーブルと一緒に食事を摂っている。楽しい会話もしつつ、ひとり一人の様子も確認している。	/	/	△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	リビングにあるカウンターキッチンで調理しており、音、におい、熱を常に感じられる。	○	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事摂取量・水分摂取量を毎日把握できるよう記録し、確保できるよう確認している。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	水分が摂りにくい方にはお好きな飲み物を購入したり、提供時間を追加したりしている。体調不良等で必要摂取量が継続して確保できない方については、看護職員とも相談し、栄養補助食品も提供したことがある。	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	毎月給食委員会を開催しており、外部委託業者・管理栄養士・給食担当職員が参加している。ご入居者の意見や希望を伝えたり、調理方法などのアドバイスを受ける機会を設けている。	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	感染対策委員会が中心となり食中毒の勉強会を開催した。食材管理のため冷凍冷蔵庫の温度チェックや、日々の衛生管理以外に毎月の台所清掃日で清潔を保つようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	協力医療機関の訪問歯科診療時にご入居者・職員への口腔ケア指導があり理解できている。	/	/	/	口腔ケアの重要性を認識しており、毎食後の歯磨きと毎日義歯の洗浄を行っている。また、6か月に1回全員が歯科検診を受ける体制を整えて、利用者の口腔内の健康状態を把握し、歯科医の指導を得ながら日々の口腔ケアを実施している。治療が必要となった場合は訪問による歯科診療を受けることができる。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	毎日の口腔ケアや食事の様子から状態を把握するよう努めている。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問歯科診療時にご入居者さま・職員への口腔ケア指導があり、日々のケアで活かせるよう努めている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	毎食後に義歯を出してもらい手入れをしてもらっている。必要時は洗い直しをしている。寝る前には外して洗浄液につけている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後に声掛けをし口腔ケアをしてもらっている。必要な支援も行なっている。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	協力医療機関の歯科へ相談し受診へ行ったり、訪問診療をしてもらっている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	5月に紙おむつ業者による勉強会を開催し、排泄にかかわる高齢者の心理について改めて理解することができた。	/	/	/	夜間のみおむつを使用している利用者が少数いるが、日中夜間共にトイレで排泄ができるよう支援している。排泄状態を詳細に記録して職員間で話し合い、本人や家族の希望を確認しながら、時間帯や排泄量に合わせて適切な排泄用品を使用できるよう配慮に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	勉強会を通して理解している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	既往歴や習慣、排泄パターンを理解している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	排泄チェック表を確認したり、ご本人の様子からトイレへ誘導したりしてトイレで排泄ができるよう支援している。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	便秘を繰り返す方には排泄チェック表で確認しながら下剤も服用してもらっているが、できるだけ自然排便をしてもらえるよう、水分摂取量の目標を設定し取り組んでいる。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄チェック表にはトイレで排泄できた時と、すでにパットに出ている時が分かるように記録している。それぞれの方のパターンに合わせて声掛け誘導を心がけている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	パット類はは数種類の中からご本人の好みや、家族との話し合いで決めるようにしている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	主に日中と夜間で使い分けている。また、外出や行事の時などには提案させてもらうこともある。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	汁物に食物繊維パウダーを入れたり、職員が意識できるよう水分摂取量の目標値を設定し取り組んでいる。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	曜日や時間帯が職員都合になることが多いが、その中でも入浴時間やお湯の温度等は個別で対応している。体調面や入浴の拒否があるときは無理せず、曜日をずらすようにしている。	◎	/	△	湯温等は、利用者の要望に応じて対応しているが、週2回の入浴で曜日や時間帯が職員の都合等になっているため、利用者の希望など臨機応変な支援に取り組んで欲しい。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	ゆっくりと湯船に浸かり、リラックスできるよう支援している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	浴槽台や入浴用チェアを用意し、手すりも追加できるだけご自分の力で入浴ができるよう支援している。洗身や洗髪も必要な介助のみに心がけている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	入浴を強く拒否する方には無理強いせず、時間をおいて、日を変えて対応している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	毎日バイタルチェックを行い体調管理をしている。必要な方には入浴前にも再チェックをし、入浴の可否を決めている。入浴後はゆっくり水分を摂ってもらっている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム すみれ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜勤申し送りファイルやケース記録でパターンの把握に努めている。	/	/	/	日中に活動を増やすなど工夫し、薬剤に頼らない支援に努めており、不眠が続くなどやむを得ない場合は、医師や看護師と相談しながら薬を服用している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の過ごし方を見直したり、水分をしっかり摂ってもらったりして工夫はしている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	できるだけ薬に頼らない支援を目標としているが、それでも必要があればご家族や医師、看護・介護職員と話し合いの場を設けている。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	お気に入りのソファでの昼寝や、居室での昼寝などしてもらっている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	ご本人の要望に合わせて支援している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	×	電話をかけるよう促すことはしていないが、かかってきた電話からの声を聴いてもらうなどの支援はしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	ご自分の携帯電話や、電話の取次ぎなどご自由にいただいている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	年賀状が届くことがあるので、ご希望があれば一緒に読み、お返事をどうするかたずねている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	ご家族に理解、協力をお願いしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	ご本人がご自分でお金を管理する大切さは理解している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	預り金の中から引くようにしており、実際にお金に触れる機会は作れていない。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	集団で行くときにはあらかじめご挨拶をしている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	ご家族との話し合いで預り金にしている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入居時に話し合いを行っている。また、状態の変化に合わせて入居後も話し合いを設けることもある。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	預り金管理規定の中で取扱者などを明確にしている。家族にも説明をしている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	×	一人ひとりのニーズに合わせ柔軟に対応するべきと考えるが、まだ具体的なサービスには至っていない。	◎	/	△	利用者一人ひとりの具体的な要望を把握しておらず、具体的な要望にまでは至っていないため、個別の要望を聞き取り柔軟に対応するなど、今後の取組みに期待したい。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	×	大きな道路から玄関までは舗装はしてあるが上り坂になっており、気軽に立ち寄る雰囲気は醸し出せていない。 事業所は建物2階にありわかりやすいとは言えないが、玄関で職員がお声掛けや案内をしている。	◎	◎	○	入口ドアの大きな透明ガラス越しにリビングが見渡せるなど、開放感がある。事業所が2階にあるため、玄関では職員が優しく声をかけ案内をするなどの配慮がある。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	△	クラブ活動で作成した作品や、季節感を感じられるような飾りをご入居者と一緒に作成して飾っている。	○	◎	○	オープンキッチンがある共用空間は明るく、椅子席とソファ席があり、利用者はそれぞれの場所でくつろいでいる。新築されたばかりの事業所は清掃が行き届いていて美しく、不快な臭い等も感じない。利用者と職員合作の七夕飾り等季節感のある飾りをするなど、家庭的で居心地よく過ごせるようになっている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	朝日が入りまぶしくなるので遮光・遮熱シートを張って配慮している。居室掃除は入浴日に実施している。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	リビングにあるカウンターキッチンから聞こえる音やにおい、洗濯物を干すときの石鹸のかおり、また季節ごとの飾りなど、特別なものではないが家庭的な空間となっている。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	リビングでのご近所付き合いや居室での一人の時間をそれぞれ思い思いに過ごしていただいている。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	浴室は直接見えないような設計になっている。トイレはリビングに面しており、扉の開け閉めの際は職員が立ち位置を考え見えないよう配慮している。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	ご家族にも協力をしていただき、出来るだけ馴染みのものを持ち込んでもらっている。	◎	/	○	全室洋室でベッドが設置されており、馴染みの椅子や本箱、テレビ等を思い思いに配置するほか、写真や花を飾っている。家族の位牌を置き、毎日祈りを絶やさない利用者もいるなど、生活習慣を継続しながら居心地よく過ごせている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	バリアフリーで手すりを設置している。また、リビングの席は入居者の関係性だけでなく、居室やトイレへの動線も考慮している。	/	/	○	車いすで移動する利用者にとっても、安全に移動ができる生活空間になっており、リビングには本や新聞を置いて、手に取って読むことができる。居室を間違えないよう門札を大きく表示したり、トイレ表示等分りやすく工夫している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	トイレに手作りのトイレ表示をしたり、リビングのテーブルに名札を貼ったりして、ご自分が行きたい場所をわかりやすくしている。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	×	お茶の道具は職員のお手伝いが必要であったり、裁縫・園芸・大工道具は職員が管理して、その都度要望に応じている。	/	/	/	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	×	2階建ての2階にあり、ユニットから廊下へ扉は鍵がかかっている。ユニット間の扉は施錠していない。	◎	◎	△	職員は玄関に鍵をかけることの弊害を理解しているが、電子ロック構造になっているユニット玄関は時間を限定してロックされている。通常はできる限り開錠するよう試みており、今後利用者が自由に出入りできるよう取り組んで欲しい。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	入居時に話しを行い、居室に施錠をしないことについては理解をえている。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	×	2階建ての2階にあり、ユニットから廊下へ扉は鍵がかかっている。ユニット間の扉は施錠していない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	個人ファイルに入居前の診療情報やアセスメントシートを入れており把握できるようにしている。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎日の様子をケース記録に記入している。毎朝、バイタルチェックをし、記録、再検査数値を決めており必要のある方は時間をおいて再検査している。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	看護職員が配置されており、介護職員と連携をとりながら健康管理をしている。また、主治医ともすぐに相談できる体制ができており、必要な医療につなげられるよう努めている。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入居申し込みや入居前にご本人やご家族の希望を伺っており、希望される医師に受診できるよう支援している。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	ご家族・かかりつけ医・看護職員・介護職員が連携をとり、望まれる医療を受けられるよう支援している。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	その都度、情報交換や話し合いを行っている。	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院の際にはアセスメントシートに最近の日々の暮らしがわかるような内容も記入して、情報提供している。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	入院先の地域連携室に連絡をとり、情報交換に努めている。	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	入退院時や、入居相談等の機会を通じて、地域連携室との関係づくりに努めている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	介護職員は常日頃から看護職員へ相談や報告を行っており、直接伝えられないときには申し送りノートを活用している。また、看護職員よりかかりつけ医等へ伝えるようにしている。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	オンコール体制をとっており看護職員が対応している。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎朝、バイタルチェックをし、記録、再検査数値を決めており必要のある方は時間をおいて再検査しており、看護職員に報告している。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	ご入居者の内服が一覧できるようファイルを作成しており、ファイルに薬事情報をいれている。随時更新もしている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	看護職員がご入居者の薬をわかりやすいよう与薬しており、介護職員が確認しながら服薬介助を行っている。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	内服薬が変更になった場合は申し送りノートで知らせ、何か変化がないか確認するようしている。また、便秘で下剤を服用した際には、排便状況だけでなく心身の変化も注意して観察するようになっている。	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	気になることがあればケース記録に記録し、介護・看護職員からかかりつけ医へ相談している。。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時に重度化の指針を説明している。 また、新体制になり、再度ご家族あてに意向確認を行うようにしている。	/	/	/	入居時に終末期をどこで迎えたいか聞き取りを行っており、24時間医療体制を整備し、本人や家族の要望に応じて看取りを行う方針である。今後職員が不安なく看取りケアが実施できるよう研修を継続していく予定であるが、家族や医師等医療関係者が出席のもと、定期的に重度化や看取りについて話し合い、方針等を共有することに期待したい。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	△	ご本人やご家族の思いに出来るだけ応えらえるよう、主治医・看護職員・管理者と話し合いを行っている。 職員へは看取りの研修を行ったが、定期的に重度化や看取りについて話し合う必要がある。	○	/	△	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	職員から伝わる不安をくみ取るよう努めている。また看護職員と協力しながら支援の方向性を見極める努力はしている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	ご本人やご家族の思いに出来るだけ応えらえるよう、主治医・看護職員・管理者と話し合いを行う際に、対応方針について理解をえられるよう努めている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	ご入居者にとってのより良い暮らしを中心に、ご家族・主治医・看護職員・介護職員と情報交換し共通の認識で支援できるよう連携をとるようにしている。 また、今後も看取りの研修を定期的に行っていく予定である。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	ご家族へのねぎらいの言葉を伝え、ご家族の立場で気持ち共有できるよう努めている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	感染対策委員会が中心となり、感染症対応について季節ごとに研修を行っている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染症対応マニュアルがあり、研修を通じて周知している。 発生時にも研修を行っている。 また、嘔吐処理についてはシーズン前にシミュレーション研修を計画している。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	協力医療機関から感染症発生状況等の情報をいただいている。また、保健所へ問い合わせたり、インターネットで発生状況も確認している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	協力医療機関から感染症発生状況等の情報いただいたり、保健所へ問い合わせたり、インターネットで発生状況を確認している。また、近隣職員の家族が通っている学校等の情報も確認している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	感染症流行期には面会者にもマスク着用・手指消毒をお願いしている。 職員へは手洗い講習会を開いたり、洗面所に啓発ポスターを掲示して意識付けできるようにした。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時に日々のことを伝えたり、何かあったときは電話連絡で報告や相談をしている。				家族に行事案内を送付しているが、あまり参加者がいないため、家族に合わせて日程調整するなど、参加者が増えるよう取り組んで欲しい。毎月たよりを発行して行事の案内をしたり、担当職員が暮らしの様子を介護計画に沿って記載して送付しており、家族からも喜ばれている。事業所の運営上のことや職員の異動等については、家族に報告できていないので、運営推進会議等を利用し報告することに期待したい。家族の面会時には気持ちよく挨拶するなど声かけし、何でも気軽に相談できるよう支援に努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	笑顔で挨拶を心がけ、気持ちよく過ごしていただけるよう雰囲気作りに努めている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	×	行事やボランティア活動を毎月のたよりでお知らせしたり、声掛けを行っているが、まだまだ定着していない。	×		×	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月、居室担当が1か月間の様子を、ケアプランのサービス内容に沿った形式でお手紙として送っている。それ以外に「すみれだより」を発行し、行事の報告や予定、個別の写真を添えて送っている。	◎		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	面会の際にご家族の本音をうかがえるような関係づくりに努めている。会話の中から感じ取れるときはしっかりと話をさせていたが、介護職員の異動・退職等については報告はできていない。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	ご家族のご本人に対する思いは日々の会話からも伺えることは多く、ご家族の思いに寄り添えるよう努力はしている。ご家族に向けた認知症の勉強会も計画している。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	重要事項説明書に関する事項は文書にて説明し同意書をいただいている。理事長・管理者等の変更時にはあいさつ文を送っていたが、介護職員の異動・退職等については報告はできていない。	○		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	面会の際にご家族同士でお話をされることはあるが、行事や家族会などは開催できていない。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入居前にリスク説明を行っている。また、事故報告もその都度行い、再発防止策についても伝えるようにしている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	ご家族から気軽に声掛けしていただけるよう、まずは気持ちの良い挨拶を心がけている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約時には時間をとって説明を行っている。内容の変更については、わかりやすい言葉で説明し、理解をえるようにしている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	ご家族の意向に沿って退居の支援を行っている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時及び料金改定時には文書で説明し、同意書にて同意をえている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	×	今後、地域の方にも参加してもらえるような行事を企画、開催し、身近な施設として知っていただくよう努めている。	/	◎	/	事業所周辺は商業地で民家はなく、日常的な近所付き合いが困難な環境である。同一法人が運営する事業所や保育園児との交流の機会はあるが、近隣住民との交流の機会は限定的である。今後認知症啓発を目的とした研修会を企画し、地域住民に事業所を知ってもらいたいと考えており、地域住民とも交流の機会を増やすなど、地域とのつながりが強固になるような取組みに期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	×	近隣保育園との交流やボランティア活動を通しての地域とのつながりはあるが、今後は防災訓練や市民清掃などにも参加をして関係性を深めていきたい。	/	×	×	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	地域とのつながりは課題であり、今後情報発信をし取り組んでいく必要がある。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	犬の散歩で駐車場まで来られている方には挨拶をしている。まだまだ課題が多い。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	ご近所さんが少ない環境ではあるが、お会いする方には挨拶をしている。時々、施設についての質問もしていただいている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	近隣保育園の訪問や、園児との農園での芋作りなどで交流を図っている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	×	近隣保育園や介護施設との交流がほとんどなので、今後はもっと地域イベントへの参加や、スーパーや公園へのお出かけなど力を入れたい。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	近隣は介護施設や病院があり、日ごろから連携をとっている。また、訪問理美容、移動販売等では定期的に訪問してもらっている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	ご入居者・ご家族に依頼して参加してもらっている。地域の方としては町内会がないので民生委員さんに依頼して参加してもらっている。	×	/	○	利用者や家族、民生委員、職員等の参加により会議を開催している。会議では外部評価等について報告し、家族等から意見や提案等を出してもらっているが、事業所の運営に反映するまでには至っていないので、今後は積極的な取組みに期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	ご家族よりいただいたご意見を紹介し、それに対する取り組みなどを報告している。その他に活動予定・報告をし、写真なども見ていただいている。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	△	事業所が抱えている問題についての確なアドバイスやご提案をいただくことが多い。サービスの向上にまだまだつなげられていないので今後はしっかりと取り組みたい。	/	◎	△	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	テーマに合わせて専門機関に出席を依頼している。また、ご家族様への案内も行っている。	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	議事録はファイルにしてユニット入り口に設置している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	「地域・利用者・職員の喜びと幸せ」という夢を形にするために、One for all, all for Oneの精神で貢献するという共通認識をもって取り組んでいる。職員会議の前には職員全員で唱和し意識づけを図っている。	/	/	/	代表者は職員の勤務実績を把握しており、個別に話し合う機会を作っている。外部研修については勤務扱いにする等の支援制度があり、職員が研修を受けやすいよう配慮されている。今後はストレスマネジメントについても学習をしたいと考えるなど、職員のストレス軽減にも努めている。
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	事業所内に掲示している。わかりやすく伝えることまでは至っていない。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	△	系列法人内で計画的に役職に合わせた研修を実施している。また、資格取得や興味のある内容の研修に参加してもらえるよう取り組んでいる。	/	/	/	
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	毎月勉強会を開催しており、職員のスキルアップを図っている。新人職員には教育担当職員を決めて、安心して仕事に取り組めるようになるまで約2か月間指導している。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	代表者は個々の努力や勤務実績を把握し、その都度話し合う機会も作っている。資格取得への支援もしており、やりがいや向上心を持って働ける環境作りにも努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	地域の事業者連絡会や同業者の交流会等へ管理者や職員を積極的に参加させており、意識向上を図っている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	勤務変更や休みを気軽に相談にのり対応することで、職員自身や家族を大切にしている。ストレスケアに興味があり研修を受けている職員がいるので、今後はその職員に教えてもらいながらストレスケアにも取り組みたい。	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	勉強会や講師を招いての研修を通して理解している。	/	/	/	
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	「虐待の芽チェックリスト」を活用して、日々のケアの振り返りをする機会を作っている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	虐待発生時のマニュアルや法令遵守マニュアルがあり、研修を通して周知している。	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	毎朝、出勤職員の顔を見て挨拶を交わしている。気になることがあれば声をかけて話を聞くようにしている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	勉強会や講師を招いての研修を通して理解している。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	研修を通して理解しているが、気づきがあったときにはその場で話し合いをしている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	入居前・入居契約時に身体拘束は行わないことを十分に説明をしている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム すみれ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	それぞれの制度について学ぶ機会はあったが、忘れがちになるので勉強会を開催して学びなおしをする必要がある。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	入居相談で必要性を感じた時には前もって市役所や社協においてあるパンフレットで情報提供をしている。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	運営推進会議は地域包括支援センターや社会福祉協議会にも参加していただくようにし、日ごろから連携を図るよう努めている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	緊急時の対応マニュアルは作成している。前回の勉強会から時間も経ったので、再度勉強会を計画している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	その都度看護職員に聞きながら確認している。また、看護職員が行う処置も見るように心がけている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハット報告書を簡単な様式にして、すぐに書き留められるようしている。報告書はすぐ目に付くところに掲示し共有するようにしている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	事故報告書の再発防止策を検討するときや、ヒヤリハット報告が出た際に職員で話し合いを行っている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情解決に関する規定を定め、苦情受付窓口を設けている。また、事業所入り口にご意見箱も設置している。苦情があった場合にどのような対応をするべきか参考資料等で勉強している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	いただいたご意見に対しては速やかに回答するよう対応している。また運営推進会議でも報告をしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情やご意見をいただいた時には、職員全員に周知するようにし、対策案を検討するようにしている。匿名でいただくことが多いため、上記のことを回答書として掲示し、ご意見をいただいたことに感謝の気持ちも伝えている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議やケアカンファレンスに参加していただいた際に伺っている。また、日頃から何でも言いやすい雰囲気作りと関係作りにも努めている。			○	利用者との日常会話の中で要望を聞き取るほか、介護計画更新時に時間を設けて意向を確認している。家族は運営推進会議や来訪時に意見や希望を聞くほか、意見箱に入った意見については丁寧に対応し、改善策をユニット入口に掲示して家族に周知している。管理者は積極的に個人面談を実施して、職員からの意見や提案を聞くよう努めているが、不十分な感もあるので今後は定期的に面談の機会を設けることが望まれる。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	苦情受付窓口を設けている。また、事業所入り口にご意見箱を設置している。また、日頃から言いやすい雰囲気作り、関係作りにも努めている。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	苦情受付窓口について事業所の担当者と第三者委員さん、公的な窓口を掲示している。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	日頃からユニットに足を運んでおり、職員に声をかけている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	△	職員全員と面談をし、職員の意見や提案を聞くことができた。また、その意見を全ユニット合同の会議で発表し、みんなで検討している。				

愛媛県グループホーム すみれ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	-	計画はしているが、まだ実施できていない。	/	/	/	今回初めてのサービス評価であり、自己評価をしていく中で気付くことが多かったと感じており、可能な事柄についてはすでに改善に取り組んでいる。今回は様々な事情が重なり、職員全体の取組みにならなかったが、今後の過程において職員で話し合う機会を持ち、成果と課題を共有しながらサービスの向上に繋げていくことに期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	-	今回が初めての外部評価であり、課題が多数明確になった。今後活かしていきたい。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	-	職員全員で結果を受け止め、目標達成計画を作成し取り組んでいきたい。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	-	運営推進会議や指導監査などで報告できるようにしたい。	○	○	-	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	-	成果が確認できるような工夫をしたい。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	防災計画を作成し、職員がいつでも見れるようにしている。	/	/	/	事業所周辺には法人が運営する複数の事業所があり、協力し合える環境がある。夜間を想定した火災避難訓練では、消防署の指導を得て避難方法を話し合っている。運営推進会議において地区防災訓練や福祉避難所の受け入れ等提案を受けており、訓練への参加を通して地域との協力関係を構築していくことに期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	夜間帯を想定した訓練を行っている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	防火管理者が定期的に行っている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	地域の消防署とは連携をとり、避難訓練に立ち会ってもらっている。今年度は消防署の救命講習会を計画している。 近隣施設との合同訓練についてはまだ話し合いができていない。	×	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	地域ケア会議に参加した際に共同訓練の話題も上がったので、事業所としても積極的に参加していきたいが、まだできていない。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	今後、地域の方に発信していけるよう取り組んでいきたい。	/	/	/	管理者は、地域ケア拠点としての活動については、これからの課題であると感じており、積極的に地域の関係機関に働きかけて、事業所のPRにも積極的に取り組んでいくことに期待したい。また職員で話し合いながら、地域に根ざし地域住民に信頼される事業所を目指して欲しい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	地域の方からの相談があった際は行っている。	/	×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	ボランティアに来ていただいた際に、練習場所も解放していることを伝えている。運営推進会議等でも伝えている。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	現在は実績はないが、お話があればぜひ協力したい。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	地域の事業所連絡会や運営推進会議、同業者のサークル活動等で連携を図っている。地域の一員として認めていただけるよう努力をしていきたい。	/	/	△	